

どうしますか？

どこへ避難し、どの道を使えば

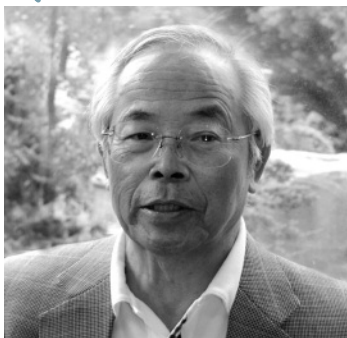
いいか、考えてみませんか？

水のつかりやすい所に
色をつけました。注意
してください。

西尾町内会の中野さん

避難所に◎をつけ、分かりやすくしました。

水害からまちを守るため

西尾町内会長 築山^{あきら}昭さん

西尾町内会では
このように作りました

まちでは、昔田んぼだった所に家が建つようになり、水害が問題となってきました。降った雨を一時的に蓄える役割をしていた田んぼが減ったため、すぐに道路に水があふれてしまいました。車が水に浸かったり、床上浸水したりする家も出てきました。そこで、「この場所は注意が

必要だ」と伝える手段として、被害に遭わない被害を減らすための水害ハザードマップを作ろうと思ったのです。

町内へ呼びかけると、たくさんの方が参加してくれました。実際に地図を持って、まちを回ったり、災害の履歴や地域特性、地形条件などの情報を共有したりして、水害の危険箇所や水害対策・避難方法などを議論したのです。おかげで、地域にとって有効な対策をまとめた地図ができました。



今後は、配布するだけでなく行動訓練を通して、町内の人々に体で覚えてもらいたいと考えて



話し合いながら地図をまとめる参加者

昨年、西尾町内会を中心として、安城町地区の「水害手作りハザードマップ」を作成しました。

住民が、自分の住んでいるまちを実際に歩いて回って、確認し、ほかの住民に広く伝えることで、災害防止につながります。今年、城南町が作成する予定です。あなたも、まちの危険箇所を知ることから始めませんか？

※町内会でのハザードマップ作成には、県から補助を受けられる場合があります。詳しくは土木課まで問い合わせてください。

■「水害手作りハザードマップ」って何？

水害を自らの問題としてとらえ、地域ごとに水害が起きた時の早期避難のヒントをまとめた地図のことです。(上図参照)

■ハザードマップができるまで

●**まち歩き** 地図を持って町内を歩き、雨がたまりやすい場所や避難時の危険箇所を、実際に確認する

●地図の確認 まち歩きで確認した地図をもとに、危険箇所
の地図を作る。水が来る方

向・逃げるタイミング・避難場所などを話し合う

●地図の完成 皆さんの声を取り入れたハザードマップの完成

■ハザードマップの活用

マップに記載された避難路や一時避難所を確認しながら、実際に地域の避難所までの移動を体験する。

雨水タンクをご利用ください



市では、水害を防ぎ、災害時の防災用水・庭木やプランターの水やりなど雨水を効果的に利用する雨水タンクの設置を、補助しています。詳しくは、本紙5月15日号をご覧ください。

問▼土木課